

二月 柔らかな「岩石学」

常任理事(庶務担当) 山本 哲郎

### 「第二回熊本県医療人育成総合会議」の開催

「熊本県医療人育成総合会議」は、人類史上類を見ない高齢社会に突入している日本の現実に医育を通して対処するために、熊本における各種専門職医療人育成

に関する情報の共有や連携の仲立ちをしようとする前年度から始めた公益事業です。ところが平成二十三年三月十一日に東日本大震災が発生し、災害医療・災害医学教育への熊本における取り組みが喫緊の課題として浮上しました。そこで、熊本の災害医学教育を促進させる契機とするために、「医療人育成総合会議」を活用しようということになりました。

幸いなことに、熊本赤十字病院は国内並びに国外大災害に対する救護や医療担当の派遣チームを持つ日本における災害医療の拠点病院の一つであり、東日本大震災においてもいち早く医療チームを現地に派遣し、東松島市や石巻市で支援活動を行われました。そのことにより、現地の医師や保健師などから厚い信頼を得ておられました。また、日本赤十字九州国際看護大学は、国内外における災害医療に携わる医療人の育成を教育の柱の一つとしていくことも判明しました。そこで、熊本赤十字病院国際医療救護部副部長に本年度の実行委員会にご参加いただき、内容の企画立案のみならず、災害現地からの医療人や九州国際看護大学長の

招聘にもご尽力いただきました。おかげで、被災現場の実態と、医療施設、医療組織が被災した中での生の医療活動体験を伺うことができましたし、日本の医学教育において災害医学教育が大きな弱点になっていくことも分かりました。熊本において災害医療チームを組織したり災害医学教育を充実させていくにあたっての大きな糧になったと思います。概要を以下に報告いたします。

実行委員：遠藤文夫(実行委員長)、上田信之、木原信市、興梠博次、児玉公道、藤中高子、二塚 信、宮田 昭、森田敏子、山本哲郎

事務局：赤木 寛、長澤 功(熊日)、堀川孝文(熊日)、山下泰弘(熊日)

テーマ：「災害医療―東日本大震災から学ぶ―」

日時：平成二十三年十一月十九日(土) 午後一時三十分から五時三十分

場所：熊本大学医学部キャンパス 医学教育図書棟第一講義室

座長：熊本大学大学院保健学教育部長 木原信市氏

熊本大学大学院生命科学研究所 消化器外科学分野教授 馬場秀夫氏

基調講演 「災害現場における医療最前線を振り返る」

一 「やっぱ人間っておもしろい」 石巻赤十字病院 救命救急センター 長 石橋 悟氏

二 「東日本大震災に被災した一診療所の復興への記録」地域で働く開業医と医療班の連携」 鳴瀬中央医院(宮城県東松島市)院

長 齊藤雄康氏  
三 「災害現場における医療最前線を振り返る」現地保健師の立場から」

宮城県東松島市保健福祉部健康推進課 技術主任兼保健師 大内佳子氏

講演一 「災害救護班派遣における後方支援体制の重要性について」

熊本赤十字病院 診療部長・国際医療救護部副部長 宮田 昭氏

講演二 「熊本県における災害時医療体制の現状と課題」

熊本県健康福祉部政策監 藤中高子氏

講演三 「人道支援研修と日本赤十字九州国際看護大学の人間教育」

日本赤十字九州国際看護大学学長 喜多悦子氏

パネルディスカッション 熊本中央病院 循環器科医長 角田 等氏

熊本大学大学院生命科学研究所教授 精神看護専門看護師 宇佐美しおり氏

講演講師 六名

参加人数 約一五〇名

その後、十二月十七日に熊本日日新聞紙面一頁に亘って講演・協議の内容を報告しました。また、その報告紙面を「肥後医育振興会」ホームページに転載し、自由に閲覧できるようにいたしました。

常任理事(庶務担当) 山本 哲郎

### 第十六回 医学研究助成金の授与

平成二十三年九月二十七日(火) 午後六時から「平成二十三年度(第十六回)肥後医育振興会医学研究助成金授与候補者選考委員会」が開催されました。選考委員会は七名の選考委員で構成され、熊本大学大学院生命科学研究所からは赤池孝章教授(基礎系)、荒木栄一教授(臨床系)、丸山教授(薬学系)、白石順二教授(保健学系)が、熊本県医師会を代表して倉津純一理事が、関連病院からは熊本市立熊本市市民病院の津田弘之診療部長、熊本大学の生命科学研究所センター系からは生命資源研究・支援センターの山村研一教授がそれぞれの出身母体から推挙されました。選考委員会当日は、熊本県医師会の倉津純一理事及び生命資源研究・支援センターの山村研一教授が急務のため欠席され、選考については議決権行使を本選考委員会に一任されました。冒頭に公益財団法人肥後医育振興会の山本哲郎常任理事から、本助成金の趣旨説明があった後、席上配付資料により、外国人留学生奨学金の申請者三名の内一名が応募要件(他団体から年間五十万円以上の奨学金を受けていないこと)を満たさなくなつたために申請を辞退したとの報告がありました。また、中国へ帰省していたため募集期間締切日に間に合わなかつたとの理由で、新たに外国人留学生一名が熊本大学医学教育部長から推薦された旨の説明があり、審議の結果、募集人員四名の範囲内であり、なるべく多くの留学生を助成するという観点から、これを